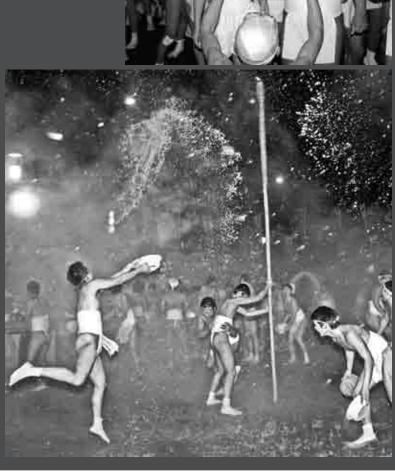
## 午後9時10分

風に舞う る古本さんの姿があった。 見届けるべく、その時を待っていた。 ば湯の温度が上がる。 さをしのいでいた。 を高らかに告げる。 **戦士たちは、戦いの火蓋が切られるとき** 巻きをして、右手にたいまつを握りしめ 戦場になだれ込む。その先頭には白い鉢 王催者から振る舞われた汁粉と甘酒で寒 を待ち焦がれ、その瞳を輝かせている。 <u>「うおおおおおおおおおおおおっ!」</u> 誰もが、登別温泉の行く末をこの目で 観客たちは分厚いコートを身にまとい 騎手を務める男女4人が、誓いの言葉 肉体という熱いよろいを身にまとった 冷気に震える者は誰ひとりいない。 力強い雄たけびとともに、戦士たちが 白組が勝てば湯量が増え、紅組が勝て 気温は氷点下8度。大きな雪の粒が強 泉源公園は観客で溢れていた。 たける戦士たちが、天まで届くような





瞬間、桶に湯をくみ待ち構えていた戦士たちが、に向かって突き立てる。



へきな咆哮を<br />
上げた。

